

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：中国地方整備局都市・住宅整備課

担当課長名：石崎 隆弘

事業名	都市計画道路 吉島観音線外 1 <small>よしじまかんおんせん</small>		事業区分	補助事業	事業主体	広島市
起終点	自：広島市中区西川口町 <small>なかにしかわぐち</small> 至：広島市西区南観音二丁目 <small>にしみなみかんおん</small>		延長	1.19km		
事業概要	<p>都市計画道路 吉島観音線は、広島市のデルタ部内における道路ネットワークの強化を図る幹線道路であるとともに、沿道の良好な市街地形成、緊急時の避難路の確保、歩行者の安全確保や自転車走行性の向上を図る重要な路線であり、デルタ市街地において天満川により分断されている中区舟入地区と西区観音地区を連絡する延長680mの区間を整備するものである。また、都市計画道路 駅前観音線は、中心市街地を環状に取り巻く幹線道路であり、吉島観音線との平面交差点を含む延長510mの区間を整備するものである。</p>					
H7年度事業化	S26年度都市計画決定 (H7年度変更)	H8年度用地着手	H10年度工事着手			
全体事業費	98 億円	事業進捗率	74%	供用済延長	0.09km	
計画交通量	3,800 (吉島観音線) ~ 37,400 (駅前観音線) 台/日 (H42)					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 3.0	総費用 (残事業/事業全体) 18.9/100.9 円 事業費：18.6/100.6億円 維持管理費：0.3/0.3億円	総便益 (残事業/事業全体) 57.2/153.0 億円 走行時間短縮便益：55.4/143.6億円 走行費用減少便益：1.7/7.9 億円 交通事故減少便益：0.1/1.5 億円	基準年 平成16年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.4 (交通量+10%) B/C=2.7 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.7 (事業費+10%) B/C=3.4 (事業費-10%)					
事業の効果等	<p>円滑なモビリティの確保 (路線バスが運行されておりバスの利便性が向上、広島西飛行場へのアクセス向上) 都市の再生 (中心市街地を囲む環状道路の一部を構成し、交通円滑化、中心市街地の活性化に寄与) 個性ある地域の形成 (天満川による中区舟入地区と西区観音地区の地域分断を解消) 安全な生活環境の確保 (通学路である路線で幅広の歩道を整備) 災害への備え (緊急輸送道路・広域避難路の整備促進) 他7項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	(特筆する事項なし)					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	(特筆する事項なし)					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>用地買収計画件数115件のうち85件を買収済 (平成15年度末) であり、天満川を横断する南観音橋 (L=89m) を平成16年5月供用している。また、吉島観音線 (南観音橋西詰~駅前観音線：L=590m) を片側歩道の暫定的な横断構成で平成15年1月供用している。</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>用地交渉に日時を要するとともに、厳しい財政状況の中で計画どおりの予算額が確保できず、事業進捗に遅れが生じているが、用地買収・工事に努め、段階的な部分供用を行いながら、平成20年代前半の完成を予定としている。</p>					
施設の構造や工法の変更等	<p>整備効果の早期発現が得られるよう、段階的な部分供用を意識した用地買収を進め、片側歩道の暫定的な横断構成で一部区間を供用している。</p>					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の理由を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。